

指導用ルーブリックに基づく授業づくりのポイントについて ～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

昨年度も、**埼玉県学力・学習状況調査**の結果及び**指導用ルーブリック**を活用して、児童生徒の学力を特に伸ばしている教師（小学校17名、中学校11名）へのインタビューを行った。質問事項としては、主に『①**子供たちの学力を伸ばすために意識していることは何か**』と『②**支援を必要としている児童生徒への対応について**』である。以下は、インタビューの内容に基づく、**効果的な指導方法（グッドプラクティス）**である。

子供の学力を伸ばす 3箇条+α

主にルーブリック
1、2に関わって

1 子供にとって分かりやすい指示出しや発問

〈分かりやすい指示出し・発問〉

- ①はっきりと**1度**で言う。
(日頃から指示等を繰り返していると1回で話を聞かなくなる)
- ②**聞き取りやすい速さ**で、抑揚をつけて話す。
(特に大事なところはゆっくり話す など)
- ③子供に**正対**し、子供を**見て**話す。
- ④「今から指示をします」など、**前置き**して指示を出す。
- ⑤口頭のみではなく、板書やICTを活用して**指示内容を残す**。
(指示の見える化)



主にルーブリック
1～3に関わって

2 教師が子供の意見を聞き、子供に任せる、学習者を尊重する授業づくり

こんなことはありませんか？

- ・全体の前で子供に説明させると時間がかかり、予定通りに授業が進まない。
- ・教師が説明する方が授業がスムーズに進む。
- ・子供一人一人の取組を見取る時間がない。
- ・子供に活動を任せると授業が成り立たない。



このように改善してみましょう！

(1) 子供が説明できる場面をつくる。



例：学習した内容を振り返ったり、新出用語の意味を指導したりする場面

(2) 子供に活動を任せる=放任するではない。 活動を任せるときは前もって以下を子供に伝えておく。

- ① **課題** (何をやるべきか、ゴールを明示するなど見通しを示す)
- ② **時間** (いつまでに行うか、何分間で行うか)
- ③ ゴールに迫るための**手立て**や**条件**、**方法**

(3) 子供の活動状況を把握して、励ましたり、認めたりする。

教師が肯定的に接することで、子供は自己肯定感を高め、更に意欲的に授業に参加するようになる。



【留意点】

次のような場合は、子供の活動を止め、改めて全体指導することも必要である。

例：話し合いがずれてきたとき
目的から意図する学び合いになっていないとき

3 「引き出す」「つなげる」「深める」をキーワードとした授業づくり

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業にするためには、教師が必要以上に話をせず、子供たちから考えや興味や関心を「引き出す」、子供の意見や考えを他の子供に「つなげる」、一人一人の子供の意見や考えを「深める」ことが重要である。

① 子供の意見や考えを「引き出す」

【「引き出す」ための教師の働きかけ例】

- ・ 子供の意見や考え方に対して **肯定的な接し方**（うなずき、繰り返し）を心掛ける。このことにより、子供が安心して発言する環境づくりにつながっていく。
- ・ 子供の **つぶやき** を聞き逃さないようにする。

引き出す



② 子供の意見や考えを他の子供に「つなげる」

【「つなげる」ための『教師の問い』例】

「〇〇さんがどのように考えたか、わかりますか」「〇〇さんの考えを別の表現で言えますか」「〇〇さんの考えでいいところはどこだと思いますか」「〇〇さんがこのように考えた理由がわかりますか」など、子供の意見や考えを教師が他の子供につなげることで、**子供同士の深い学びを生むきっかけづくり**をする。

つなげる



③ 一人一人の子供の意見や考えを「深める」

【「深める」ための教師の働きかけ例】

「振り返り」の場面で「大切だと思ったこと」「これから使ってみてみたいと思った考え方」など、**振り返る視点**を子供に示す。

深める



+α (その他)

① メリハリのある授業づくり

- ・ 説明や発問の後に「**間**」を入れて考える時間を確保する。「**間**」を入れることで、ほどよい緊張感を生徒に与えることができる。
- ・ 子供がつまづいた場合、1時間の授業が充実感を感じられず終わってしまうことがある。1時間の授業で活動の種類（聞く、話す、書く、読むなど）を変えることが必要である。「**どの子供でも1時間の授業のどこかで主体的に活動できる内容を入れる**」ことが大切である。

×悪い例

- ・ 1時間の授業ですべて教師が話をする。
- ・ 1時間の授業ですべて問題を解き続ける。



○改善例

- ・ 子供が考えてペアやグループで意見交換する機会を設定する。
- ・ 区切りをつけて丸付けの時間や友達との教え合いの時間を設定する。

② 子供が安心して学習できる環境づくり

授業中、間違えて答えた子供に対して・・・



教師が答えた子供を叱る

↓
子供は「間違えることは恥ずかしいこと、いけないこと」として認識する。

- ・ 子供が頑張って挑戦したことを認める。
- ・ 嘲笑する他の子供を注意する。

↓
子供は「**教室は安心して挑戦できる場**」として認識する。

